

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	常磐短期大学
設置者名	学校法人常磐大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	キャリア教養学科	夜・通信	4	0	11	15	7	
	幼児教育保育学科	夜・通信			11	15	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページに掲載 URL https://www.tokiwa.ac.jp/syllabus/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	常磐短期大学
設置者名	学校法人常磐大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページに掲載 URL https://www.tokiwa.ac.jp/tokiwa/member/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2019. 3. 1 ~ 2023. 2. 28	経営計画等の策定 および重要事項の 決定
非常勤	元学校法人役員	2017. 4. 1 ~ 2021. 3. 31	経営計画等の策定 および重要事項の 決定
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	常磐短期大学
設置者名	学校法人常磐大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書(シラバス)の作成過程 各授業科目担当者に対して、「講義要綱(シラバス)執筆の手引き」(URL https://www.tokiwa.ac.jp/faculty/office/pdf/writing_guide_c.pdf)に基づき作成を依頼している。各授業科目担当者が作成したシラバスは、教務委員会による記載内容の確認等を行い、必要な修正を加えたうえで公表している。 ・授業計画書の作成・公表時期 前年末(12月)に各授業科目担当者に作成を依頼している。その後、上記の過程を経て年度当初のガイダンス開始前に公表している。(2020年度の授業計画書は2020年3月30日に公表) 	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページに掲載 URL https://www.tokiwa.ac.jp/syllabus/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位授与または履修認定の厳格かつ適正な実施状況 学修成果を把握・評価する方法として「常磐短期大学アセスメント・ポリシー」を定め、公表している。 各授業科目の成績評価は、定期試験の成績によるほか、平素の授業の受講態度、授業期間中の試験成績、レポート等シラバスに明示した到達目標に対応した評価方法・基準に沿って適切に実施している。 	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 客観的な指標の具体的な内容 成績評価の客観的な指標として GPA 制度を導入している。GPA は、履修登録した授業科目の 5 段階評価 (S, A, B, C, D) を 4 から 0 までの点数に置き換えたうえで、下記の計算式に基づき算出している。 <p>なお、受験資格喪失 (X) および試験欠席 (F) は 0 点とし、所定の期間において申請する履修取消 (W) は GPA 計算の対象から除外する。</p> $GPA = \frac{(\text{「Sの修得単位数」} \times 4) + (\text{「Aの修得単位数」} \times 3) + (\text{「Bの修得単位数」} \times 2) + (\text{「Cの修得単位数」} \times 1)}{\text{「履修登録した科目の単位数」の総和 (D・F・Xを含む)}}$ <ul style="list-style-type: none"> 客観的な指標の適切な実施状況 上記のようにあらかじめ GPA の算出方法を設定し、公表している。また、 Semester 毎、年度毎に各学生の GPA を算出し、学修状況の把握や成績の分布状況の把握に活用するなど、適切に実施している。 	
客観的な指標の算出方法の公表方法	履修案内 (刊行物) 本学ホームページに掲載 URL https://www.tokiwa.ac.jp/about/disclosure/pdf/gpa_c.pdf
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業の認定に関する方針の具体的な内容 卒業の認定に関する方針として「常磐短期大学ディプロマ・ポリシー」を定め、公表している。その具体的な内容は次のとおりである。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本学の建学の精神および学則に示された教育理念・教育の目的等に基づき、短期大学士としての広く深い教養と専門知識を基礎として、さらに専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる学生を社会に送り出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 共通の教養科目を含むキャリア教養学科と幼児教育保育学科、それぞれの授業科目からなる学修を通じて、卒業後も自らの資質を向上させながら社会的及び職業的自立を図るための基礎的能力を身につけた学生。(知識・技能、汎用的能力、態度・志向性) ② 質の高い実践力と責任意識をそなえ、豊かな人間性をもった、創造的で常に成長する学生。(汎用的能力、態度・志向性) ③ グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、その問題を捉え、問題の解決に真摯に取り組むことができる情報能力と国際的感覚をそなえた学生。(汎用的能力、態度・志向性) </div> <ul style="list-style-type: none"> 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 教授会において、卒業の認定に関する方針や学科ごとに定める卒業の要件 (常磐短期大学学則) の充足状況等を個別に確認のうえ卒業を認定している。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	本学ホームページに掲載 URL https://www.tokiwa.ac.jp/about/disclosure/dp/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	常磐短期大学
設置者名	学校法人常磐大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tokiwa.ac.jp/tokiwa/financial/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.tokiwa.ac.jp/tokiwa/financial/index.html
財産目録	https://www.tokiwa.ac.jp/tokiwa/financial/index.html
事業報告書	https://www.tokiwa.ac.jp/tokiwa/financial/index.html
監事による監査報告(書)	https://www.tokiwa.ac.jp/tokiwa/financial/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページに掲載 URL https://www.tokiwa.ac.jp/tokiwa/report/index.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページに掲載 URL https://www.tokiwa.ac.jp/about/report/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 キャリア教養学科
教育研究上の目的 (公表方法 : URL https://www.tokiwa.ac.jp/about/disclosure/purpose/) (概要) ① 修養的教養、基礎的 IT 能力、コミュニケーション能力、幅広い知識および自己内省力からなる「教養」を基礎とした職業人を養成するために、これらに係る教育研究を行う。 ② ①の目的を達成するために、幅広い知識に基づく実務能力を持つ人材を養成する。 ③ ①の教育研究を通じて、しっかりとした職業意識に基づく基礎的職業能力を身につけた自立した学生をあらゆる職業分野に送り出す。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : URL https://www.tokiwa.ac.jp/about/disclosure/dp/) (概要) キャリア教養学科では、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、所定の期間在学し、所定の単位を修得した上で、次の知識・技能や資質能力を身につけた学生に「短期大学士（キャリア教養学）」の学位を授与します。 ① 知識・技能 自己を成長させながら社会に貢献できる「教養ある職業人」として自立するための、幅広い知識と基礎的な専門職業能力（実務能力）を身につけている。 ② コミュニケーションスキル・情報リテラシー グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、社会人として必要な情報能力と異文化理解力を身につけるとともに、適切な自己表現ができる。 ③ 論理的思考力・問題解決力 広く深い教養と専門的職業能力・専門知識を身につけ、課題発見とその解決能力を有している。 ④ 社会性・協調性 教養とキャリアにかかわる学びを通し、自立した社会人になるための実践力と創造性を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : URL https://www.tokiwa.ac.jp/about/disclosure/cp/) (概要) キャリア教養学科では、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、卒業の認定に関する方針（卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力（学修成果）を学生が身につけるため、以下に示すとおり教育課程を編成し、実施します。 ① 教育課程の編成と特色等 (1) 教育内容（編成方針） マナーなどの修養的教養や異文化理解を含むコミュニケーションスキル、基礎的 ICT 能力、幅広い知識及び自己内省からなる教養が身につくように教育課程を編成する。 ・「教養ある職業人」として、社会環境に対応できる実践力、応用力を養うための科目群を配置する。 ・短期大学士として必要な知識・技能、汎用的な能力、態度・志向性を養うため、授業科目区分の科目群は、順序性・系統性を持たせて配置する。 ・全国大学実務教育協会認定資格（上級秘書士・上級秘書士（国際秘書）・上級秘書士（メディカル秘書）・上級ビジネス実務士・プレゼンテーション実務士）を取得するための科目群を配置する。

<p>(2) 教育方法（実施方針） 本学での学修を通して実践力のある「教養ある職業人」を育成するため、段階的な教育方法を実施する。</p> <p>【1年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア形成科目」「キャリア教養コース科目」「ビジネス経営コース科目」を中心に、幅広い知識とビジネスマナーを身につけながら職業観を養う。 ・進路志望によってコースを選択し、専門的知識を身につける。 <p>【2年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次に学んだ内容を発展させて、実践力・応用力を高めていく。 ・2年間の学びの総決算として、「課題研究」において、各自のテーマを深めながら、論文または作品にまとめていく。 <p>② 授業科目の構成 「教養ある職業人」として求められる専門職業能力（実務能力）、コミュニケーションスキル、情報能力を身につけるために、次の授業区分により、実践的・多面的に教育課程を構成する。</p> <p>(1) 「基礎科目群」 現代社会を多面的に把握し、主体的に生きる知恵としての教養を学ぶための「基礎科目」と、将来のキャリア形成に資する基礎能力を培うための「キャリア形成科目」で構成する。</p> <p>(2) 「専門科目群」 キャリアにつながる知識と実務能力を身につけるための「キャリア教養コース科目」と、企業と社会の理解を深め、ビジネス実務能力を身につけるための「ビジネス経営コース科目」で構成する。</p> <p>(3) 「展開科目群」 (1)の「キャリア形成科目」、(2)の「キャリア教養コース科目」、「ビジネス経営コース科目」、それぞれの内容をさらに深めた科目で構成する。</p> <p>(4) 「総合科目」 2年間の学びの集大成として、学生が各自のテーマを深めながら、論文または作品にまとめる「課題研究」で構成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：URL https://navi.tokiwa.ac.jp/admissions/policy/junior-college/)</p> <p>(概要) キャリア教養学科では、教育研究上の目的を踏まえて、「教養ある職業人」の育成を掲げています。このことは、教養が人間の尊厳と自立を培うものであること、そして、キャリア（職業意識と基礎的職業能力）がその教養にこそ基礎づけられる、との理解があります。本学科の目的を達成するために、以下のような人を迎えたいと考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 高等学校までの教育の内容をおおよそ理解できる人。（知識・技能） ② 現状を分析して課題を明らかにし、目標を持って行動できる人。（思考力・判断力・表現力） ③ 他者の意見を丁寧に聞いて、自分の意見や考えをわかりやすく伝えられる人。（思考力・判断力・表現力） ④ 幅広い教養と職業的専門能力を身につける意欲がある人。（主体性・多様性・協働性） ⑤ 意見や立場の違いを理解し、協調性をもって行動できる人。（主体性・多様性・協働性）

各入試制度とアドミッション・ポリシーで求められる資質・能力との関係									
学力の3要素	入試制度	総合型選抜 (セミナー型)	総合型選抜 (個別型 I・II期)	総合型選抜 (卒業生推薦)	学校推薦型 選抜(公募制)	学校推薦型 選抜(指定校)	一般選抜	大学入学共通 テスト利用 選抜 I・II期	社会人選抜
	AP\、選考方法	GD・ 個人面接	作文・ 個人面接	個人面接	個人面接	個人面接	学力試験・ 個人面接	学力試験	小論文・ 面接
知識・技能	1. 高等学校までの教育の内容をおおよそ理解できる。	○	○	○	○	○	◎	◎	○
思考力・判断力・表現力	2. 現状を分析して課題を明らかにし、目標をもって行動できる。	◎		◎					○
	3. 他者の意見を丁寧に聞いて、自分の意見や考えをわかりやすく伝えられる。		○	○	○	○	○		○
主体性・多様性・協働性	4. 幅広い教養と職業的専門能力を身につける意欲がある。	◎	◎	◎	◎	◎	○		◎
	5. 意見や立場の違いを理解し、協調性をもって行動できる。	○							

◎:特に重視する ○:重視する 空欄:対応している

学部等名 幼児教育保育学科
教育研究上の目的 (公表方法: URL https://www.tokiwa.ac.jp/about/disclosure/purpose/) (概要) ① 幼児教育および保育に携わる者として必要な豊かな人間性を育み、さらに高度な専門的知識および技術を身につけさせるために、これに係る教育研究を行う。 ② ①の目的を達成するために、幼児教育および保育を通して人間関係の基礎を教授し、保育の技術を実践的に教授する。そして、保育を通して自己の成長を図るように教育する。 ③ ①の教育研究を通じて、質の高い実践力を持ち、自覚または責任を兼ね備え、子どもたちと心を通い合わせることでできる豊かな人間性を持った保育者を社会に送り出す。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: URL https://www.tokiwa.ac.jp/about/disclosure/dp/) (概要) 幼児教育保育学科では、人間性豊かで倫理観を備え、多様な課題に対し主体的・自律的に取り組むことができる実践力のある保育者の養成を目指します。そのために、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき編成した教育課程を通し、所定の単位を修得することで、次の知識・技能や資質能力を身につけた学生に「短期大学士(幼児教育保育学)」の学位を授与します。 ① 知識・技能 幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。 ② 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力 ・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。 ③ 論理的思考力・課題解決力・創造力

- ・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。
- ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。

④ 自律性・協働性

- ・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。
- ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：URL <https://www.tokiwa.ac.jp/about/disclosure/cp/>)

(概要)

幼児教育保育学科では、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、卒業の認定に関する方針（卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力（学修成果）を学生が身につけるため、以下に示すとおり教育課程を編成し、実施します。

① 教育課程の編成と特色等

(1) 教育内容（編成方針）

- ・幼稚園教諭二種免許状および保育士資格の取得要件に対応可能な教育課程を編成する。
- ・短期大学士として必要な知識・技能、汎用的な能力、態度・志向性を養うため、授業科目区分の科目群は、順序性・系統性を持たせて配置する。
- ・幼児教育・保育に関する課題に対応できる実践力、応用力を身につけ、生涯にわたり自らの資質を向上させる態度を養うための科目群を配置する。

(2) 教育方法（実施方針）

本学での学修を通して人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を養成するため、段階的な教育方法を実施する。

【1年次】

- ・講義・演習科目では、乳幼児を取り巻く社会環境や、乳幼児期の発達段階や特性等、幼児教育・保育に不可欠な知識を学ぶ。
- ・実技科目では、理論・知識の習得をもとに、指導のベースとなる技能を身につける。

【2年次】

- ・1年次に学んだ内容からさらに踏み込んで、実践力、応用力を養う。
- ・実習科目では、乳幼児等と触れ合い、子どもの理解、具体的な援助法・指導法を実践的に修得する。

②授業科目の構成

乳幼児期の発達と教育についてよく理解をした上で、専門家としての質の高い保育者となっていくために、次の授業科目区分により、基礎・基本を踏まえ、実践的・多面的に教育課程を構成する。

(1) 「基礎科目群」

「教養」と「基礎」に区分し、現代社会を多面的に把握し主体的に生きる知恵としての教養と、保育者に求められる基礎・基本とを、広い視点から学ぶ科目を構成する。

(2) 「専門科目群」

「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」に区分し、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ科目を構成する。

(3) 「展開科目群」

「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」「実習」に区分し、「専門科目群」の内容を応用・発展させ、実践的に学ぶ科目を構成する。

(4) 「総合科目」

それまでに修得した理論と実践に基づき、より主体的で実践的・創造的な保育へ発展させる力を身につけるための科目を構成する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：URL <https://navi.tokiwa.ac.jp/admissions/policy/junior-college/>)

(概要)

幼児教育保育学科の専門性の高い教育に対応し、自ら学んでいける学力と体力、そして意欲のある人を求めます。特に、子どもたちを育み成長を援助することに喜びを感じる人を積極的に受け入れます。

- ① 入学までに受けた教育の知識・技能をおおよそ身につけている人。(知識・技能)
- ② 自ら課題を設定してそれを解決できる人。(思考力・判断力・表現力)
- ③ 自らの考えや信念などを他者に伝えることができる人。(思考力・判断力・表現力)
- ④ 幼児教育について主体的に学ぼうとする意欲がある人。(主体性・多様性・協働性)
- ⑤ 他者とコミュニケーションをとりながら協働して活動できる人。(主体性・多様性・協働性)

各入試制度とアドミッション・ポリシーで求められる資質・能力との関係

学力の3要素	入試制度	総合型選抜(セミナー型)	総合型選抜(個別型I・II期)	総合型選抜(卒業生推薦)	学校推薦型選抜(公募制)	学校推薦型選抜(指定校)	一般選抜	大学入学共通テスト利用選抜I・II期	社会人選抜
AP\選考方法		GW・個人面接・音楽	作文・個人面接・音楽	個人面接・音楽	個人面接・音楽	個人面接・音楽	学力試験・個人面接・音楽	学力試験・個人面接・音楽	小論文・面接・音楽
知識・技能	1. 入学までに受けた教育の知識・技能をおおよそ身につけている人。	○	○	○	○	○	◎	◎	○
思考力・判断力・表現力	2. 自ら課題を設定してそれを解決できる人。	◎							
	3. 自らの考えや信念などを他者に伝えることができる人。	○	○	○	○	○	○	○	◎
主体性・多様性・協働性	4. 幼児教育について主体的に学ぼうとする意欲がある人。	○	○	○	○	○	○	○	○
	5. 他者とコミュニケーションをとりながら協働して活動できる人。	◎							

◎:特に重視する ○:重視する 空欄:対応している

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：URL <https://www.tokiwa.ac.jp/about/disclosure/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
キャリア教養学科	—	4人	3人	1人	2人	0人	10人
幼児教育保育学科	—	3人	6人	0人	1人	0人	10人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		27人					27人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：URL https://www.tokiwa.ac.jp/about/teacher/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
「常磐短期大学ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置し、FDに関する研究活動、FD推進のための企画および実施、FDに関する報告書等の作成等に取り組んでいる。なお、FDに関する取組状況等は、本学ホームページに掲載（ https://www.tokiwa.ac.jp/about/fd/ ）し、公表している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
キャリア教養学科	100人	73人	73%	200人	149人	75%	0人	0人
幼児教育保育 学科	140人	124人	89%	280人	266人	95%	0人	0人
合計	240人	197人	82%	480人	415人	86%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
キャリア教養学科	76人 (100%)	1人 (1.3%)	71人 (93.4%)	4人 (5.3%)
幼児教育保育 学科	118人 (100%)	0人 (0%)	115人 (97.5%)	3人 (2.5%)
合計	194人 (100%)	1人 (0.1%)	186人 (95.9%)	7人 (3.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
キャリア教養学科	84人 (100%)	76人 (90.5%)	8人 (9.5%)	人 (%)	人 (%)
幼児教育保育 学科	118人 (100%)	117人 (99.2%)	10人 (8.5%)	人 (%)	人 (%)
合計	202人 (100%)	193人 (95.5%)	9人 (4.5%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業計画書（シラバス）の作成過程 各授業科目担当者に対して、「講義要綱（シラバス）執筆の手引き」（URL https://www.tokiwa.ac.jp/faculty/office/pdf/writing_guide_c.pdf）に基づき作成を依頼している。各授業科目担当者が作成したシラバスは、教務委員会による記載内容の確認等を行い、必要な修正を加えたうえで公表している。 授業計画書の作成・公表時期 前年末（12月）に各授業科目担当者に作成を依頼している。その後、上記の過程を経て年度当初のガイダンス開始前に公表している。（2020年度の授業計画書は2020年3月30日に公表）
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針として「常磐短期大学ディプロマ・ポリシー」を定め、公表している。その具体的な内容は次のとおりである。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本学の建学の精神および学則に示された教育理念・教育の目的等に基づき、短期大学士としての広く深い教養と専門知識を基礎として、さらに専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる学生を社会に送り出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 共通の教養科目を含むキャリア教養学科と幼児教育保育学科、それぞれの授業科目からなる学修を通じて、卒業後も自らの資質を向上させながら、社会的及び職業的自立を図るための基礎的能力を身につけた自立した学生。（知識・技能、汎用的能力、態度・志向性） ② 質の高い実践力と責任意識をそなえ、豊かな人間性をもった、創造的で常に成長する学生。（汎用的能力、態度・志向性） ③ グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、その問題を捉え、問題の解決に真摯に取り組むことができる情報能力と国際的感覚をそなえた学生。（汎用的能力、態度・志向性） </div> <ul style="list-style-type: none"> 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 教授会において、卒業の認定に関する方針や学科ごとに定める卒業の要件（常磐短期大学学則）の充足状況等を個別に確認のうえ卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	キャリア教養学科	68 単位	⑦・無	49 単位
	幼児教育保育学科	68 単位	⑦・無	49 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページに掲載
URL <https://www.tokiwa.ac.jp/about/disclosure/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	キャリア教養 学科	660,000 円	250,000 円	350,000 円	
	幼児教育 保育学科				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 指導教員規程を設け、学生と指導教員が面談する機会を設けている。さまざまな相談の中から経済的支援をを求める学生については、JASSOのみならず、大学独自の奨学金である諸澤幸雄奨学金やローズヴィラ水戸奨学金を紹介し、支援が必要な学生からの申請等につなげている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) それぞれの学科の特性に合わせて1年次から教職員が連携し情報を共有することで学生の状況に寄添った手厚い支援を実施している。「学生を独りにしない支援体制」と「学内外一体での支援体制」の2本柱で希望する業種・職種に就職できるよう支援している。学科別のガイダンスを実施し、就職活動の基本情報や企業（または園）の動向等の説明を行う他、各種セミナーや合同企業研究会の開催、就職試験の個別指導等に注力した支援を展開している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 新入生についてはU P Iテストを実施し、特定項目に「あてはまる」、と回答した学生を個別に呼出し、カウンセリングにつなげている(2020年度は未実施)。保健室とともに、学生がくつろぐことのできる「フリースペース」を備え、心身のバランスを整え、授業に出る環境づくりを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページに掲載
URL <https://www.tokiwa.ac.jp/cooperation/research/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	常磐短期大学
設置者名	学校法人常磐大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	7人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				7人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。